



通勤通学時間帯の幹線道路で、二輪車はどこを通行し、ライダーはどんな服装で走行しているか？



Why

交通事故の発生は朝8時～10時と夕方に集中している！

時間帯別にみた交通事故件数(平成23年、公益財団法人交通事故総合分析センター資料)をみると、最も事故が起きている時間帯は16時～18時(15.5%)、次に多いのが8時～10時(14.5%)となっている。また、二輪車乗車中の損傷部位別・状態別負傷者数(平成23年、警察庁資料)では、脚部と腕部の負傷が全体の半数を占めている(下記、円グラフ参照)。そこで今回は、朝のラッシュ時における二輪車の渋滞時の走行位置と服装を観察した。



観察は平日、朝のラッシュが激しい国道246号の上り線で行った。クルマと二輪車のほか、路線バス、自転車、自転車が先を

朝の通勤通学時間帯は、先を急ぐあまり焦りやいらだちを覚えながら運転しているドライバーやライダーも多い。二輪車の運転に際しては安全確認が十分行えるスピードで走行することが重要だ。国道246号は40km/h程度のスピードで流れていたが、歩道寄りの車線には駐車車両があるため、路線バスはたびたび車線変更を行っていた。道交法では、「車両は、車両通行帯の設けられた道路

Advice

無理な車線変更は禁物
ライダーは肌を露出しない
安全な服装で運転を

急いで走行しており、観察中は3車線とも車両の流れが止まることはなかった。クルマの走行スピードは40km/h程度、二輪車はわずかなスペースを見つけて「すり抜け」走行や、連続的に車線変更をして少しでも早く混雑を抜け出そうと走っている様子だった。

Q1

二輪車は3車線ある道路のどの位置を多く走行していたのでしょうか？

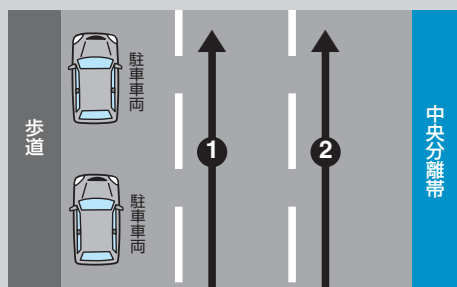
A1 実際の観察から

★Q1の回答

312台中174台(56%)が中央寄り(追越車線)を走行(下図の②)

1時間半の観察で確認できた二輪車は合計312台。片側3車線道路のうち、歩道寄りの一車線は駐車車両が複数台いたため、事実上は2車線になっていた。歩道寄りの①の車線を走行していたのは312台中138台(44%)、中央分離帯側の②の車線を走行していたのは全体の56%にあたる174台だった。

実際の観察では、①の車線は駐車車両を避ける路線バスや自転車が入り込んでくるため、他の車両の流入が少なく、安定して走行できる②の車線の走行台数が多くなったと推測された。車種別に見ると、①の車線は原付、②の車線ではスポーツバイクと大型スクーターが中心に走行していた。

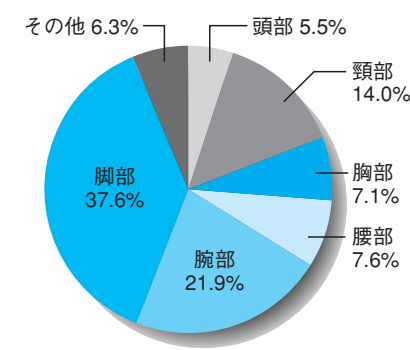


歩道寄りの車線を走行する二輪車は、自転車と並走することが多かった



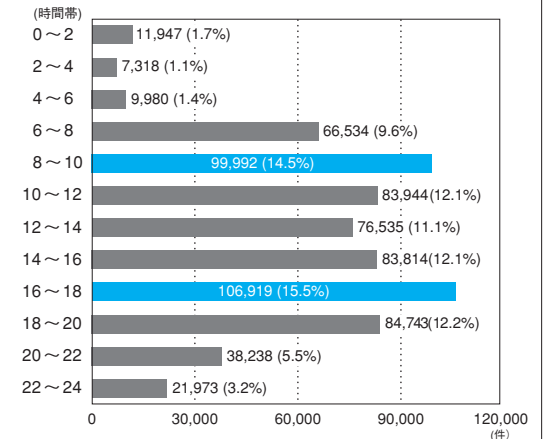
信号待ちではクルマ、二輪車、自転車、路線バスが入り乱れていた

●二輪車乗車中の損傷部位別・状態別負傷者数(平成23年・構成率)



※出典：警察庁資料

●時間帯別交通事故件数(平成23年)



半袖、半ズボン、スニーカーで走るライダー。あごひもは締めていない

Q2

夏の一般道路でのライダーの服装は、どのくらい守られていたのでしょうか？

走行していた。併わせて、ライダーの服装を観察したところ、全体的に安全意識が高いとは感じられなかった。この日、都心の気温は30度を超えていたこともあり、長袖を着用していたライダーは312台中107台(34.3%)にとどまった。ヘルメットは通過した全ライダーが着用していたが、あごひもが緩い、もしくは締めていない例があった。傾向としては、原付・ハーブヘルメット着用者に多くみられた。

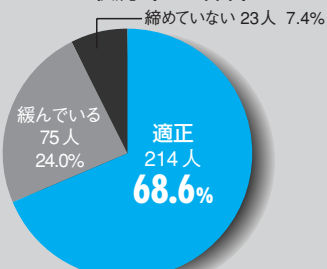
交通量の多い通勤通学時間帯、二輪車は特に慎重な運転を求められる。周囲を走る車両の挙動に注意を払うと同時に、無理な車線変更を控え、交通の流れに合わせた走行をすること。また、夏場であっても肌を露出しない服装を着用し、万一の事故に備えた対策を意識する必要がある。

A2

実際の観察から

★Q2の回答
全体の6割以上が長袖・グローブを非着用

●幹線道路を走行するライダーのあごひもの状況(312名中)



※あごひもの状況は観察者の主観による

●幹線道路を走行するライダーの服装(312名中)

	○	×
長袖	107 (34.3%)	205 (65.7%)
長ズボン	264 (84.6%)	48 (15.4%)
グローブ	112 (35.9%)	200 (64.1%)
ブーツ(くるぶしが隠れる靴)	28 (9.0%)	284 (91.0%)

昨年7月、高速道路でのライダーの服装を観察し、9割以上が長スボン・グローブを着用していたが(2011年8・9月号参照、今回は正反対の結果となった。観察の結果、長袖・グローブが非着用だったライダーは全体の6割を超え、ブーツ(くるぶしが隠れる靴)の着用率は10%に満たなかった。

通勤通学に二輪車を使っているためか、スーツ姿のライダーをたびたび見かけたが、足下は通勤用の革靴がほとんど。Tシャツと半ズボン、サンダル履きでスクーターを運転する姿は、老若男女問わず散見された。



安全に配慮した服装をしたライダーは稀だった